

グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース 過去の競争政策のレビュー部会(第5回)の結果について

1. 概要

2/1(月)開催の「過去の競争政策のレビュー部会」(第5回)においては、事務局からの政策マッピングの資料説明、中島構成員のプレゼンテーションの後、意見交換が行われた。

2. 提起された主な論点とやりとり

- 通信事業に限らず、日本の企業は、付加価値を取るような産業構造への転換が遅れ、大量生産・大量消費から中々脱皮できなかった。他分野やグローバルへの展開が産業全体に十分生じてない。マーケット自体を狭く見て同じマーケットで生き残らないといけないという意識があまりに強い。
- 労働規制と関係するところはあるが、近年、生産性がなかなか上がらないのは、相対的に低い生産性水準にある非正規雇用者を増やしてきたことが反映されている面がある。
- 北欧で電子政府が利用されているのは、役所に行くよりもネットの方が便利のため。利用率等は、本当にその数字で比べて良いかを見ないと、日本を過小評価してしまうことになる。
- 生産性においてICT活用が進んでないことを素直に認めるべき。その上で、その要因を考える必要がある。例えば、ドミナント規制の影響。ドミナント規制がある国・ない国、規制の強弱でICTの活用状況・生産性が変わるのか。規制の強弱に関する評価が難しければ、ドミナント事業者のシェアとICTの生産性をマッピングするという代替指標はある。
- 日本の大手三社は、大変な人員削減をしているはずであり、一人当たりの人件費の高さは意外だが、これにより、一人当たりの生産性が低くなるということか。
- 利益が人件費に応じ高くなっていれば、生産性も高くなるが、そうではない。人員削減はしていても、人材活用面で余地が残っていると推測。ただ、国ごとに単独・連結決算の差はある。
- テレフォニカ、ボーダフォンなどが海外進出している国は、旧植民地などが多い。海外展開は、その国のインフラそのもので、非常に政治的な問題もあり、一筋縄ではいかない。
- 労働コストが高いところで電子政府や医療の遠隔化が進む面もあり、FTTHの普及にしても、トータルコストをどのように考えるかという観点を含めて議論すべき。
- 例えばICT産業が身を削って、非常に安くサービスを利用できるようにし、他産業に立ち直ってもらおうという考え方と、ICTの価値に対価を求め、更に付加価値を追求し、ICT産業の拡大とともに他産業も拡大するという考え方がある。どういうパスを描くかを議論すべき。
- 技術革新があり、多額の投資が必要な産業は利益率が低いとうまくいかない。リーディング産業自体が、他産業の成長のために利益率を落として分配するのはどうか。
- 日本でICTを導入しても生産性が向上しないのは、企業風土の問題が強い気がする。企業としてメリットをどのような形で取るかを明確にすることが必要。
- 競争政策と通信料金の関係を時系列で見る必要がある。競争導入により料金が低廉化していれば、競争政策としては評価すべき。料金の低廉化が、他産業のコストダウンだけで活性化につながらないケースもあり、競争政策の問題か他の経済環境等の問題かを分けて考える必要がある。

3. 今後の進め方

黒川座長より、構成員からの指摘(ドミナント規制とICTの生産性の関係、競争政策と通信料金の関係)に関して事務局で資料を準備してほしい旨の指示があった。また、次回は、3月1日に開催し、引き続き議論を行いたい旨発言があった。

グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース 電気通信市場の環境変化への対応検討部会(第5回)の結果について

1. 概要

1/25(火)開催の「電気通信市場の環境変化への対応検討部会」(第5回)においては、吉川構成員のプレゼンテーションの後、理念や政策について意見交換が行われた。

2. 提起された主な論点とやりとり

- ICT の基本的位置付けとして、様々な課題解決と成長戦略の要であること、イノベーションに対して親和的であることが重要。
- 各論に入るための基本姿勢として、成長分野は上位レイヤーだが、インフラレイヤーとの噛み合わせが重要であり、①上位レイヤーでは情報をどう価値化するか、②インフラレイヤーではアクセス系インフラ(希少資源)がイノベーションに寄与するか、③市場のプレーヤーが自由にのびのび活動できるか、がポイント。
- イノベーションは構成員共通のキーワードとなっているが、それをどう具体化できるかが重要。イノベーションを最大化する観点から、先送りされてきた認証基盤、著作権(知的所有権)、プライバシー(セキュリティ)ポリシーについて方向性を示すことができればよい。
- e-Japan 戦略により世界最高速のブロードバンドは実現した。近く発表予定のアップルのタブレット製品に最適な通信インフラは、固定系ではなくLTE や WiMax かもしれず、上位レイヤーのサービスのイノベーションにより求められるインフラは移り変わるのが現状。最高のインフラとは何か、定義そのものを見直すことが必要。
- これまでの競争政策は同じインフラレイヤーの中での議論だったが、インフラが土管化していく中で今後重要な課題となるのは、ネット中立性の問題。
- 利活用の分野には、①ためになる、②儲かる、③役に立つ、④おもしろい、の4点がある。受益者を明確にして、阻害要因を取り除くために議論すべきであり、その観点からインフラのイノベーションの自由も必要。
- 利用者の選択の余地があるかどうか重要であり、その観点からインフラを考えるべき。
- 全体の議論がインフラに引きずられているが、情報へのアクセスを消費者がコントロールできるかが重要。
- 上位レイヤーの情報の取扱いについて、プライバシー、情報のコントロール権が重要。
- 表現の自由やインターネットアクセスについても理念の中に盛り込むべき。
- アクセシビリティについては、その本質が理解されていないと効果的な対応ができない。ビジネスの観点のみならず、基礎的研究のための長期的な視野を持つべき。
- 現時点でリアルな課題となっているもの(クラウド、FMC 等)の考え方を示すことも必要。

3. 今後の進め方

山内座長より、本日の指摘を事務局でまとめた上で、引き続き議論を行いたい旨発言があった。また、次回は国領構成員にプレゼンテーションをお願いすることで了承された。

グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース 地球的課題検討部会(第3回)の結果について

1. 概要

1/29(金)開催の地球的課題検討部会(第3回)においては、「ICTで夢を作れるプロジェクト」に関する構成員からのプレゼンテーションの後、フリーディスカッションが行われた。

2. 構成員プレゼンテーションの概要

- (1) **村上座長代理**: 我が国では「ICT離れ」が進んでおり、生活者に夢を伝え、産業が夢の実現を進め、若手研究者・若者に夢をもたらし「ICT『夢』プロジェクト」が必要。例えば研究開発について、テーマ自体を提案してもらうこと、若い専任の研究者を充てること等を内容とする制度としてはどうか。
- (2) **喜多構成員**: 高齢者・障がい者・子ども・外国人を対象にするとICTの有用性が際立つ。取組に当たり、開発の「死の谷」を超えるための公的援助や、使う側の心理面も考慮した地域との連携が必要。
- (3) **森構成員**: 環境とICTについては、「見える化」が期待されている。個人が環境に配慮した行動の蓄積を「見える化」する「環境貯金」や「環境万歩計」を提案する。そのほか、運転免許を持たない高齢者等がオンデマンドで交通システムを利用できる「電子金斗雲」システムを提案する。
- (4) **山田構成員**: 高齢者・チャレンジドが使いやすいICT機器・サービスの開発に当たっては、公共調達の活用が重要。米国の公共調達制度や我が国のグリーン購入法に倣った法制度の導入を目指すべき。
- (5) **金子座長**: 図書の関係性を三次元の街に見立てて映像化した「図書街」プロジェクトについて紹介。

3. フリーディスカッションにおける主な論点とやり取り

(1) 研究開発について

- ・ ICTの研究開発に15年で5兆円投資してもこの惨状。海外からの参加を得て進めるべき。
- ・ 研究者の視点だけではなく、ニーズを見ながら進める必要がある。座長代理のアイデアや「原ロビジョン」の「デジタルネイティブ新事業創出プロジェクト」にしっかり取り組むべき。
- ・ 他分野でのICTの活用技術を研究する場合には、一定期間現場(病院等)に行くことが必要。

(2) 高齢者・チャレンジドが使いやすいICTについて

- ・ 政府調達による購入の意思を示すことが、中長期的に開発コストの低減につながる。【
- ・ ユニバーサル化に取り組むことは、チャレンジドへの提供という視点だけではなく、新興国市場への展開という点でも有用。

(3) 環境とICTについて

- ・ 「Green of ICT」と「Green by ICT」は重要。
- ・ ICTの活用は石油文明や大量生産・大量消費からの決別につながる。我が国は「環境×ICT」で世界に売り出し、競争力強化につなげるべき。

(4) 「図書街」プロジェクトについて

- ・ 検索分野でGoogleなどが生まれたが、今後、検索の先にあるナビゲーションという仕組みに大きな可能性・夢があるのではないか。
- ・ ICTによって新たな関連付けを行うことで、正規分布ではない領域にリーチが可能となる。例えば政府が持っている情報を開示すれば、新たな関連付けが行われビジネスにもつながる。

4. その他

金子座長より、医療分野でのICT利活用方策を検討する作業チームの設置の提案があり、了承された。